様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	福岡女学院大学
設置者名	学校法人　福岡女学院

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
人文	現代文化	夜・通信	31	0	100	131	13	
	言語芸術	夜・通信			58	89	13	
	メディア・コミュニケーション	夜・通信			62	93	13	
人間関係	心理	夜・通信		0	105	136	13	
	子ども発達	夜・通信			90	121	13	
国際キャリア	国際英語	夜・通信		0	40	71	13	
	国際キャリア	夜・通信			0	31	13	
（備考）								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.fukujo.ac.jp/university/compendium/disclosures.html

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	福岡女学院大学
設置者名	学校法人　福岡女学院

１．理事（役員）名簿の公表方法

公表方法：ホームページ https://www0.fukujo.ac.jp/disclosure/officer/

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社役員	2022.6.1～ 2025.6.20	財務
非常勤	株式会社役員	2024.6.1～ 2025.6.20	広報
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	福岡女学院大学
設置者名	学校法人　福岡女学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） ・授業計画（シラバス）の作成過程 毎年 11 月に次年度の科目担当責任者へ依頼を行う。入稿後、各学部教務部委員により、授業計画（シラバス）の内容（成績評価基準を中心に）の確認を行っている。その結果、必要に応じて訂正を行う。 ・授業計画の作成・公表時期 授業計画の作成は毎年 11 月から翌年の 2 月まで作業を行っている。授業計画には、下記の事項等を記載している。 「授業実施形態」（講義、演習、実験、実習の別）「授業のテーマ及び到着目標」「授業概要」「授業計画」（授業回数含む）「成績評価」「事前・事後学習」「留意事項」「実務経験の有無」「教室使用言語」「科目ナンバー」「関連 DP」 公表時期については、3 月中旬としている。	
授業計画書の公表方法	https://www.fukujo.ac.jp/university/about/disclosure
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

・単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況

授業計画（シラバス）に予め記載された適正な方法（各授業科目において、試験やレポート、授業への参加度など評価基準を具体的に明示）により実施している。本学で定められた成績評価の基準（GPA）については下記を定めている。

区分	評価	成績評価基準	
合格	AA	100 点～90 点	非常に優れている
	A	89 点～80 点	優れている
	B	79 点～70 点	単位認定が妥当
	C	69 点～60 点	単位が認定される最低限度
不合格	D	59 点～0 点	単位認定は不適当
	F	―	失格

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

・GPA の客観的な指標の具体的な内容（指標の算出方法など）

合格・不合格の評価を 5 段階で行うとともに、全学的な学力を評価する指標として GPA を利用している。各科目の成績評価は以下の基準で実施している。

・客観的な指標の適切な実施状況

区分	評価	成績評価基準	1 単位あたり GP
合格	AA	100 点～90 点	4
	A	89 点～80 点	3
	B	79 点～70 点	2
	C	69 点～60 点	1
	N	認定	―
不合格	D	59 点以下	0
	F	失格	0

・算出方法

成績が確定した履修登録科目の成績評価 GP に、その科目に与えられている単位数を掛けたものを、総単位数で割る。計算式は以下の通りである。

$$GPA = \frac{4 \times \text{AA の修得単位数} + 3 \times \text{A の修得単位数} + 2 \times \text{B の修得単位数} + 1 \times \text{C の修得単位数}}{\text{総単位数（D、F の単位数を含む）}}$$

客観的な指標の算出方法の公表方法	全学生が WEB 上にて閲覧可能な「履修ガイド」にて公表している。また、外部からも WEB 上で履修ガイドを閲覧することができる。

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

・各学科における卒業の認定に関する方針の具体的な内容は下記の通りである。

【人文学部　現代文化学科】

人文学部現代文化学科は、以下の学位授与方針に基づき、その基準に達したものに学位を授与する。

【知識・技能】

観光文化分野、交流文化分野、日本文化分野の専門的授業において、日本を含めた多様な国・地域の言語・歴史を習得し、価値観を知り、文化に関する深い理解を身につけている。

【思考力・判断力・表現力】

世界及び日本の文化を見直し、その共通性と相違性の双方を認識して、適切な思考・判断ができる。

【意欲・態度】

外国のみならず自国の文化を深く理解する立場から、地域を知り、異なる文化間の橋渡しをしようとする姿勢・態度を身につけている。

【人文学部　言語芸術学科】

人文学部言語芸術学科は、以下の方針に基づき、その基準に達したものに学位を授与する。

【知識・技能】

言語芸術作品（文学や映画）に関する深い知識と分析力を有している。

【思考・判断】

確かな言語（日本語・英語）能力に基づく優れた鑑賞力や思考力を有している。

【意欲・態度】

ワークショップ、フィールドワーク、作品制作、プレゼンテーションや論文・レポート作成などを通して実践力・行動力を培い、他者の考えを理解し自身の考えを発信する力を有している。

【人文学部　メディア・コミュニケーション学科】

メディア・コミュニケーション学科のカリキュラムに沿った授業科目を履修し、以下を達成すべく所定の単位数を修得した学生に学位を授与します。

1. **学際的な知識の獲得**

人文学の基礎的な学識を土台にして、メディア・コミュニケーション・デザインを横断的に学び、学際的な視座をもって思考できる。その上で、自身の興味関心を専攻した学問体系に位置づけられる。

2. **アイディアを具体化する方法の習得と実践**

ことばを論理的に用いて、文章や議論を組み立てられる。社会にあふれる情報を批判的に読み解ける。習得した複数の表現方法をもとに適切な手段を選択し、アイディアにかたちを与えられる。

3. **多様性への理解と好奇心**

社会の多様な価値観のなかで、自身の軸がどこにあるのかを見定めた上で、他者への関心と寛容さをもって協働できる。未知との出会いに臆しない知的好奇心を積極的に維持できる。

【人間関係学部　心理学科】

心理学科は、心理学を中心とした本学科カリキュラム 124 単位以上を修得し、深く専門的学問を究め、以下の学識を培った学生に学位を与えています。

1. 心理学の基礎的知識と研究方法を修得していること。

2. 客観的データを収集分析し、論理的、批判的に考える力を獲得していること。
3. 自己および他者の心を理解し、より良い人間関係を構築する力を獲得していること。
4. ポジティブな視点をもち、自己の成長を目指す姿勢を獲得していること。
5. 心理学の知識と技能を社会に活かす視点と行動力を獲得していること。

卒業後の進路は、上記の学識を元に、幅広い業界や官公庁で人や社会のために活動する職員となる、高等学校等の教員となる、もしくは大学院に進学し専門職としての研鑽を積んだり研究活動を深めることが期待される。

【人間関係学部　子ども発達学科】

【知識・技能】

子ども学の学びを通した多角的・多面的な子ども理解を中心とし、子どもの心身の発達、子どもと保護者を包括的に支援するための基礎的学力とコミュニケーション能力、専門的知識と実践的技能を身につけている。

【思考力・判断力・表現力】

子ども学の学びを基盤として、子どもの成長・発達を判断のよりどころとして子どもの育ちや環境について考える思考様式、およびそこに存在する問題の解決や、よりよい育ちを支えるモノやコトを考えデザインすることができる。

【意欲・態度】

キリスト教を基盤とした「愛」の精神に基づき、子どもが創造的に生きるための基礎づくりを援助しようとする愛情と責任ある姿勢・態度を形成している。意欲を持って、知識と技術を学び続ける意欲・態度を持っている。

【国際キャリア学部　国際英語学科・国際キャリア学科】

国際キャリア学部は「グローバル人材育成」を教育目標にして、将来「女性のリーダー」として世界で活躍できる人材を育成します。学士課程にあたっては、所定の年限在学し、所定の単位数を修得し、かつ各学科の定める教育目標に到達した者に学士号（国際英語）を授与します。

1. 実務で通用しうる高度な英語力を身につけている。
2. グローバル人材として活躍できるコミュニケーション能力を身につけている。
3. 主たる専門領域に関する深い理解力、批判的思考力、分析力を身につけている。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	ホームページにおいて公表 現代文化学科 https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/humanities/culture/#bge-policy 言語芸術学科 https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/humanities/art/#bge-policy メディア・コミュニケーション学科 https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/humanities/media/#bge-policy 心理学科 https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/human_relations/psychology/#bge-policy 子ども発達学科 https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/human_relations/child/#bge-policy 国際英語学科 https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/inter_career/english/#bge-policy 国際キャリア学科 https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/inter_career/career/#bge-policy

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	福岡女学院大学
設置者名	学校法人　福岡女学院

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www0.fukujo.ac.jp/disclosure_1/
収支計算書又は損益計算書	https://www0.fukujo.ac.jp/disclosure_1/
財産目録	https://www0.fukujo.ac.jp/disclosure_1/
事業報告書	https://www0.fukujo.ac.jp/disclosure_1/
監事による監査報告（書）	https://www0.fukujo.ac.jp/disclosure_1/

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：　　対象年度：　　）
公表方法：
中長期計画（名称：　　対象年度：　　）
公表方法：

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：https://www.fukujo.ac.jp/university/about/disclosure

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：https://www.fukujo.ac.jp/university/estimate/

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
教育研究上の目的（公表方法：　ホームページ　） https://www.fukujo.ac.jp/university/compendium/policy.html
（概要） 本学はキリスト教に基づく福岡女学院創立の精神に則り、神を畏れ奉仕に生きるよき社会人としての女性を育成するために、教育基本法および学校教育法に従って、深く専門の学芸に関する教育・研究を行うことを目的とする。 【人文学部】 人文学部は、建学の精神に基づく人格教育を基に、広い教養と深い学問とともに、実践的実務能力を併せ持った現代社会の要請に応え得る女性の育成を目的とする。 【人文学部　現代文化学科】 現代文化学科は、文化をキーワードに、歴史と現在のつながりや地域と地域のつながりについて幅広く知識を習得するとともに、現代社会の諸問題について深く思考をめぐらせ、諸問題の解決を通じて社会の発展に貢献する人材の育成を目的とする。 【人文学部　言語芸術学科】 言語芸術学科は、日本語及び英語による言語能力の育成、学際的教育の実践並びに体験重視の全人的教育を通して、創造的な思考力を身に付け、文化を社会に発信できる実践力を持った人材の育成を目的とする。 【人文学部　メディア・コミュニケーション学科】 メディア・コミュニケーション学科は、メディア、コミュニケーション及びデザインに関する知識、実態、技術などを習得し、現代社会を動かしている出来事について主体的に判断し、社会に積極的にかかわり、様々な知識と表現方法を使って、よりよい社会を創っていく人材の育成を目的とする。 【人間関係学部】 人間関係学部は、建学の精神に基づき、人とそのつながりについての幅広い教養と深い専門性をもって、自立的に社会貢献に取り組む女性の育成を目的とする。 【人間関係学部　心理学科】 心理学科は、心理学および周辺領域の体系的かつ広範な学修を通じて、自らが成長し続け、変容する社会と共に生きることのできる人材の育成を目的とする。 【人間関係学部　子ども発達学科】 子ども発達学科は、子どもの発達に関する専門的知識と理解の学修を通じて、子どもを包括的に支援するための人材の育成を目的とする。 【国際キャリア学部】 今日的な諸問題に対処する実用的言語運用能力並びに教育指導者として必要な英語力及び知識を習得し、人間と社会や文化のつながりに関する国際的な幅広い理解と知識を基に、異なる価値観に対する寛容さを持った人材の育成を目的とする。 【国際キャリア学部　国際英語学科】 国際英語学科は、国際語としての高度な英語力を備え、国際交流、英語教育、

英語学などの研究を通して、関連する分野で自己の専門性を発揮できる力を持った人材の育成を目的とする。

【国際キャリア学部　国際キャリア学科】

国際キャリア学科は、熱い「ハート」、冷静な「判断力」、そして巧みな「英語力」に加えて、高いコミュニケーションの能力と、世界を多面的・多元的に捉える能力、そしてこれらを用いた課題解決の能力を持った人材の育成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ　）

現代文化学科
https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/humanities/culture/#bge-policy

言語芸術学科
https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/humanities/art/#bge-policy

メディア・コミュニケーション学科
https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/humanities/media/#bge-policy

心理学科
https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/human_relations/psychology/#bge-policy

子ども発達学科
https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/human_relations/child/#bge-policy

国際英語学科
https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/inter_career/english/#bge-policy

国際キャリア学科
https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/inter_career/career/#bge-policy

（概要）

【人文学部　現代文化学科】

人文学部現代文化学科は、以下の学位授与方針に基づき、その基準に達したものに学位を授与する。

【知識・技能】

観光文化分野、交流文化分野、日本文化分野の専門的授業において、日本を含めた多様な国・地域の言語・歴史を習得し、価値観を知り、文化に関する深い理解を身につけている

【思考力・判断力・表現力】

世界及び日本の文化を見直し、その共通性と相違性の双方を認識して、適切な思考・判断ができる。

【意欲・態度】

外国のみならず自国の文化を深く理解する立場から、地域を知り、異なる文化間の橋渡しをしようとする姿勢・態度を身につけている。

【人文学部　言語芸術学科】

人文学部言語芸術学科は、以下の方針に基づき、その基準に達したものに学位を授与する。

【知識・技能】

言語芸術作品（文学や映画）に関する深い知識と分析力を有している。

【思考・判断】
確かな言語（日本語・英語）能力に基づく優れた鑑賞力や思考力を有している。
【意欲・態度】
ワークショップ、フィールドワーク、作品制作、プレゼンテーションや論文・レポート作成などを通して実践力・行動力を培い、他者の考えを理解し自身の考えを発信する力を有している。

【人文学部　メディア・コミュニケーション学科】
メディア・コミュニケーション学科のカリキュラムに沿った授業科目を履修し、以下を達成すべく所定の単位数を修得した学生に学位を授与します。

1. 学際的な知識の獲得
   人文学の基礎的な学識を土台にして、メディア・コミュニケーション・デザインを横断的に学び、学際的な視座をもって思考できる。その上で、自身の興味関心を専攻した学問体系に位置づけられる。
2. アイディアを具体化する方法の習得と実践
   ことばを論理的に用いて、文章や議論を組み立てられる。社会にあふれる情報を批判的に読み解ける。習得した複数の表現方法をもとに適切な手段を選択し、アイディアにかたちを与えられる。
3. 多様性への理解と好奇心
   社会の多様な価値観のなかで、自身の軸がどこにあるのかを見定めた上で、他者への関心と寛容さをもって協働できる。未知との出会いに臆しない知的好奇心を積極的に維持できる。

【人間関係学部　心理学科】
心理学科は、心理学を中心とした本学科カリキュラム 124 単位以上を修得し、深く専門的学問を究め、以下の学識を培った学生に学位を与えています。

1. 心理学の基礎的知識と研究方法を修得していること
2. 客観的データを収集分析し、論理的、批判的に考える力を獲得していること
3. 自己および他者の心を理解し、より良い人間関係を構築する力を獲得していること
4. ポジティブな視点をもち、自己の成長を目指す姿勢を獲得していること
5. 心理学の知識と技能を社会に活かす視点と行動力を獲得していること

卒業後の進路は、上記の学識を元に、幅広い業界や官公庁で人や社会のために活動する職員となる、高等学校等の教員となる、もしくは大学院に進学し専門職としての研鑽を積んだり研究活動を深めることが期待される。

【人間関係学部　子ども発達学科】
【知識・技能】
子ども学の学びを通した多角的・多面的な子ども理解を中心とし、子どもの心身の発達、子どもと保護者を包括的に支援するための基礎的学力とコミュニケーション能力、専門的知識と実践的技能を身につけている。
【思考力・判断力・表現力】
子ども学の学びを基盤として、子どもの成長・発達を判断のよりどころとして子どもの育ちや環境について考える思考様式、およびそこに存在する問題の解決や、よりよい育ちを支えるモノやコトを考えデザインすることができる。
【意欲・態度】
キリスト教を基盤とした「愛」の精神に基づき、子どもが創造的に生きるための基礎づくりを援助しようとする愛情と責任ある姿勢・態度を形成している。

意欲を持って知識と技術を学び続ける意欲・態度を持っている。

【国際キャリア学部　国際英語学科・国際キャリア学科】
国際キャリア学部は「グローバル人材育成」を教育目標にして、将来「女性のリーダー」として世界で活躍できる人材を育成します。学士課程にあたっては、所定の年限在学し、所定の単位数を修得し、かつ各学科の定める教育目標に到達した者に学士号（国際英語）を授与します。
1. 実務で通用しうる高度な英語力を身につけている。
2. グローバル人材として活躍できるコミュニケーション能力を身につけている。
3. 主たる専門領域に関する理解力、批判的思考力、分析力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）
現代文化学科
https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/humanities/culture/#bge-policy

言語芸術学科
https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/humanities/art/#bge-policy

メディア・コミュニケーション学科
https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/humanities/media/#bge-policy

心理学科
https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/human_relations/psychology/#bge-policy

子ども発達学科
https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/human_relations/child/#bge-policy

国際英語学科
https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/inter_career/english/#bge-policy

国際キャリア学科
https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/inter_career/career/#bge-policy

（概要）
【人文学部　現代文化学科】
1 年次では、「First-Year English」「スタディスキル」「情報リテラシー」などの必修科目群を履修し、大学生として必要な基礎学力・技能を身につける。選択必修科目である「観光文化論入門」「交流文化論入門」「日本文化論入門」を履修し、学科の学びの柱である３つの分野の基礎を習得する。
2 年次の「アカデミックリテラシー」「現代文化基礎演習」、3 年次の「現代文化演習」と段階を踏むなかで、各自のテーマ・関心事に沿って学びの分野を選択できるよう、各分野の基本をより深く理解できる専門科目群を履修する。
4 年次は、「卒業研究」において、各自のテーマに沿ってこれまでの学びを集大成した研究をまとめる。ホテルや空港施設での実習、国内外への研修旅行など実践的な科目を配置し、ディプロマポリシーを担保している。
教員志望者には、「国語科教育法」や「教育実習」を通じて、きめ細やかな指導を受けられる科目を開講している。

【人文学部　言語芸術学科】
日本語と英語による言語能力（鑑賞力、思考力、表現力）を育成します。

言語芸術に関して専門分野の異なる教員が多角的視点から研究・指導を行ない、学際的教育を実践します。
ワークショップ、フィールドワークや作品制作などの多彩な実践科目を配し、体験重視の全人教育を実践します。
1・2 年次の必修科目は、百読百鑑 I･II、日本語表現基礎 I･II、英語トレーニング I･II、英語発音スキル I･II、シンキングゲーム、言語芸術基礎演習、テーマシンキング（学際的授業）など。鑑賞力や分析力を養うため、学科が選ぶ書籍・映画作品などの読解・鑑賞を行ないます。
3 年次では、百読百鑑Ⅲ･Ⅳ、言語芸術演習 I･II でさらに創造力や総合力を磨きながら、体験重視の多彩な選択科目を通して実践力や発信する力を伸ばします。さらに、卒業論文をこの年次で書きます。
4 年次は総仕上げの時期です。自分の学んだことを、演劇公演、作品・論文のネット配信、出版など自分のやり方で社会へ発信します。
本学科には言語芸術コースと英語教職コースの 2 コースが用意されています。言語芸術コースでは、選択科目において、学科専門教育科目を自由に選択できます。英語教職コースでは、多くの英語教職必修科目を通して教職に必要な能力、知識や技術を確実に身につけます。
また、本学科には希望する学生に対して、日本語を教えるための専門的な知識と技術を学ぶ日本語教員養成コースと、子どもたちに英語を教えるための総合的な力を育成する児童英語教育指導員コースを用意しています。履修を希望する学生は所定の科目を修得することでコース修了証を取得できます。

【人文学部　メディア・コミュニケーション学科】

メディア・コミュニケーション学科は、人文学の基礎にもとづく学際的な知識の獲得、アイディアを具現化する方法の習得、多様性への理解と好奇心の涵養を目指します。
そのために、メディア・コミュニケーション・デザインに関する授業をバランス良く編成し、社会や他者とつながることの意味や重要性を実感できる講義・演習・総合演習を実施します。卒業年次には、指導教員のもとで学生が主体的に設定したテーマについての卒業研究を完成させます。

【人間関係学部　心理学科】

心理学科は、以下の目的をもって心理学を中心とした教育課程を編成し実施しています。

1. 心理学の基礎的知識と研究方法を獲得すること
2. 心理学のいずれかの専門領域の知見を極め、自ら研究する力を獲得すること
3. 客観的データを収集分析し、論理的、批判的に考える力を獲得すること
4. 自己および他者の心を理解する力を獲得すること
5. より良い人間関係を構築する力を獲得すること
6. 自己実現を目指す姿勢を獲得すること
7. 心理学の知識と技能を社会に活かす視点と行動力を獲得すること

1 年次には、大学における学びに必要な基礎力を修得させるための科目を配置し、学年が上がるごとに、より専門性の高い科目を配置している。２年次から３年次には、心理学の研究法を身につけ、論理的思考力およびより良い人間関係を構築する力が獲得されるよう実験実習科目・演習科目を置いている。また、自ら問いを立て、適切な方法で研究を行い、文章にまとめ、発表する力を着実に養成するため、１年次から４年次までの演習（ゼミ）を継続的に配置している。

【人間関係学部　子ども発達学科】

子ども発達学科では、「人間関係学部」のカリキュラムポリシーを基盤に置きながら、次の 3 つの視点を基に、本学科のカリキュラムポリシーとして、4 年間の学習内容を充実させていきます。

1. 子どもを学ぶ(子ども学)ために、幅広い学問領域からのアプローチを試みます。
2. 子どもはもちろんのこと、保護者や地域に対するこころの援助ができる保育・教育者を育てます。それらをよりよく実現するための保育・教育・相談の理論や方法、および技術についても実践的に学んでいきます。
3. これら全般を通して、キリスト教を基盤とした「愛」の精神を貫き、保育・教育者としての人間的涵養を図ります。

「子ども学」には、さまざまな学問領域からのアプローチの方法があり、本学科に所属する教員は、それぞれ異なる専門領域から独自の「子ども学」を展開していきます。また本学科における学修では『子ども発達センター』をさまざまな形で活用し、実践的な学習活動を展開します。

1 年次では、その基礎となる「子ども学概論」、そして「子ども学フィールドワーク」により、子どもを取り巻く場について体験的に学びます。さらに、その学問的裏づけとなる「発達心理学」や「生命科学入門」「健康科学理論」「保育原理」「教育原理」「社会的養護」「社会福祉概論」「子どもの保健」「子どもの食と栄養」等で子ども理解への基礎作りを目指します。「初年次教育」「スチューデントスキル」「生活基礎技能」といった基礎カリキュラムを履修し、これからの学生生活や学びの基礎を築きます。その集大成とも言うべき、後期の最後には保育士資格取得に関わりなく、全員が児童福祉施設実習を体験します。 2 年生には、1 年次の学習内容をさらに深化させた「子ども学フィールド演習」、「子ども学観察演習」のほか、「児童家庭福祉論」「子どもの発達と学習の心理学」「教育保育課程総論」等を学ぶとともに、「保育実習Ⅰ」「幼稚園教育実習Ⅰ」が実施されます。本学年ではこうした実践力を高めるための科目の充実を図り、保育所をはじめとする児童福祉施設や幼稚園・小学校など学校体系について理解するとともに、保育の本質・目的を考えます。

3 年次には、「子ども学総合演習」によって、1・2 年次で積み上げてきた学習成果を子どもの前で実践するための専門的知識・技術を身につけます。「保育内容総論」「障害児保育」「子ども理解の技法(観察法と統計解析法)」「発達・教育相談の基礎」「教育相談の方法と実践」等の科目に加え、「保育実習Ⅱ / Ⅲ」、「初等教科教育法」、「小学校教育実習Ⅰ」などによって本格的な実践プログラムが展開されます。

4 年次には、「特別支援教育論」「子育て支援論」等理論と実践との統合的科目群、あるいは「幼稚園教育実習Ⅱ」「小学校教育実習Ⅱ」を通して本格的な実技・実習活動が展開されます。同時に、これまでの 3 年間を通して学んできた子ども学の成果を、自らのテーマに従い「卒業研究」によって理論的・実践的に体系化していきます。

このように「子ども発達学科」で行う教育カリキュラムの 4 年間の流れは、子ども学という学問体系を通して実現されることになります。小学校教員、幼稚園教諭、保育士の養成は、ある面では密なカリキュラム構成の中で行われますが、本学子ども発達学科で行う教育・学修は単なる免許・資格の取得ではなく、子どもを「子ども学」という学問的視点から総合的に学び、その理解と指導的実践力を高めることを目標とします。

【国際キャリア学部　国際英語学科】

国際キャリア学部は「グローバル人材育成」を教育目標にして、将来「女性のリーダー」として世界で活躍できる人材を育成するために、基礎共通科目、英語スキル科目、専門領域科目、留学科目及び実務科目（フィールドワーク、インターンシップ）を編成し、科目の履修を通して総合的な能力育成を行います。授業科目の内容及び評価方法の詳細についてはシラバスに記します。

学部の学位授与方針の下、国際英語学科では下記の教育課程を通して能力育成を行います。

1. 基礎共通科目を通してグローバル人材に求められる基礎力・姿勢・態度を身につける。
2. 英語スキル科目を通して実務で通用する英語実践力を身につける。
3. 専門領域科目群の学修を通して専門知識・批判的思考力・分析力・交渉力、及び広範な国際舞台・教育・教職（中学・高等学校英語教員）等で通用する実践力を身につける。
4. 選択科目である留学科目及び実務科目を通して実践的思考力・行動力を身につける。
5. 上記教育課程を通して国際的公共・企業の場でキャリアを実践できる総合力を育成する。

【国際キャリア学部　国際キャリア学科】

国際キャリア学部は「グローバル人材育成」を教育目標にして、将来「女性のリーダー」として世界で活躍できる人材を育成するために、基礎共通科目、英語スキル科目、専門領域科目、留学科目及び実務科目（フィールドワーク、インターンシップ）を編成し、科目の履修を通して総合的な能力育成を行います。授業科目の内容及び評価方法の詳細についてはシラバスに記します。

学部の学位授与方針の下、国際キャリア学科では下記の教育課程を通して能力育成を行います。

1. 基礎共通科目を通してグローバル人材に求められる基礎力・姿勢・態度を身につける。
2. 英語スキル科目を通して実務で通用する英語実践力を身につける。
3. 専門領域科目群の学修を通して専門知識・批判的思考力・分析力・交渉力、及び国際ビジネスの実務で通用する実践力を身につける。
4. 選択科目である留学科目及び実務科目を通して実践的思考力・行動力を身につける。
5. 上記教育課程を通して国際ビジネスの場などでキャリアを実践できる総合力を育成する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：　ホームページ　）

現代文化学科
https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/humanities/culture/#bge-policy

言語芸術学科
https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/humanities/art/#bge-policy

メディア・コミュニケーション学科
https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/humanities/media/#bge-policy

心理学科
https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/human_relations/psychology/#bge-

policy

子ども発達学科
https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/human_relations/child/#bge-policy

国際英語学科
https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/inter_career/english/#bge-policy

国際キャリア学科
https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/inter_career/career/#bge-policy

（概要）

【人文学部　現代文化学科】

現代文化学科のキーワードは「文化」です。文化という面から、幅広い知識を学び、深く思考をめぐらせて構想力を磨き、社会に貢献できる実行力を持つ人材の育成を教育の目的としています。したがって、現代文化学科では次のような学生の入学を期待しています。

① 日本や海外の文化、文化の交流、観光と文化との関わりについて、理解を深めようとする学生。
② 文化について学ぶために必要な国語と英語の基礎学力を有し、それを応用できる学生。
③ 社会に関心を持ち、積極的に関わろうとする姿勢を持つ学生。

上記をふまえ、国語及び英語の学力による選抜、または面接及び小論文などを組み合わせた多角的な選抜によって、総合的に評価します。

【人文学部　言語芸術学科】

言語芸術学科は、小説・演劇・詩歌・映画など、言語を手段とする芸術（言語芸術）を新しい視点からとらえる学科です。新しい視点とは、日本語/ 英語、アナログ/ デジタル、大学/ 社会といった枠組みをとりはらって、自由に学問の世界に親しむ教養を目指すものです。確かな言語力、幅広い柔軟な思考力、これらをベースにしたコミュニケーション能力、そういったものを兼ね備えた人がいわゆる本来の意味での教養人なのです。社会が求めているのは、こうした「教養」を身につけて、どんな状況にも立ち向かえる人です。

よって、言語芸術学科では次のような学生の入学を期待しています。

・国内外の言語芸術作品に関心をもち、読解力や表現力を身につけたい学生
・従来の枠組にとらわれず、自由に学問の世界を探究する姿勢をもつ学生
・言語芸術作品を通して得たものを、社会に広く還元したい意欲をもつ学生

このような人を養うため、国語・英語の学力による試験、面接・小論文・プレゼンテーションなどを組み合わせた多角的な選抜を行ないます。

【人文学部　メディア・コミュニケーション学科】

メディア・コミュニケーション学科は、多様なメディアに着目して世界の成り立ちを考える学科です。そのために、人文学の基礎にもとづく学際的な知識を獲得した上で、社会にあふれる情報を読み解く能力と、さまざまな方法で自身のアイディアを伝えるデザインの技法を習得し、他者とのコミュニケーションについての理解を深めます。よって、メディア・コミュニケーション学科は次のような資質のある人の入学を期待します。

1. メディア・デザイン・コミュニケーションのかかわりを探求する好奇心がある。

2. 文章・イラスト・映像・音楽など、さまざまな表現方法を身につける意欲がある。
3. 社会の多様性に関心があり、他者とのつながりを大切に思っている。

【人間関係学部　心理学科】

心理学科は、「心理学の学びや研究を通じた成長と社会貢献を志す」人々と共に歩みたいと考えています。そのため、次の条件を満たす人々の入学を願っています。

1. 心理学に強い関心をもっている人
2. 学ぶこと、考えること、行動することが好きな人
3. 自分や他者の気持ちや考え方を大切にできる人
4. 自分や他者そして社会に建設的な視点をもっている人
5. つながりを大切にし、人や集団と積極的に関わることができる人
6. 心や行動の理解を深め、社会に貢献したい人
7. 基礎的な学力やコミュニケーション能力を持っている人

【人間関係学部　子ども発達学科】

子ども発達学科は次のような学生の入学を期待しています。

1. 保護者を含む乳幼児や児童を取り巻く環境に関心を持っている学生
2. 将来、子どもの気持ちを深く理解し、愛情と責任をもって、保育・教育にかかわる役割を担おうと考えている学生
3. 基礎的学力とコミュニケーション能力をもとに意欲を持って知識と技術を学ぼうとする学生

子ども発達学科は、保育士や幼稚園教諭及び小学校教諭、特別支援学校教諭となるために必要な科目群および、子どもの教育を支える幅広い専門領域を準備し、さらに実践的な実習によって子どもが創造的に生きるための基礎づくりに援助できる人材を育てたいと考えています。そのため、高等学校で学習する教科全般に関心を持ち、基礎学力を十分に身につけており、将来に向けての専門知識や技能の習得に意欲のあることを望みます。

【国際キャリア学部　国際英語学科】

国際キャリア学部は「グローバル人材育成」を教育目標にして、将来「女性のリーダー」として世界で活躍できる人材を育成します。この目標を達成するためには、高度な英語力と批判的思考力、さらに答えのない問題に果敢に挑戦するスピリッツが求められます。このような教育目標に賛同し、高い志を持って自己の持つ能力を発展させたいと考える人を本学部は求めます。

学部の教育目標の下、国際英語学科では高度な実用英語の修得を通して、国際的な企業や組織への就職を支援します。そのため下記の点に留意して選抜を行います。

1. 学科方針を理解し、自らの将来を英語力で切り開く気概と主体性のある人
2. 学科専門領域（国際関係・交流領域、英語教育領域、英語学領域）のいずれかに高い関心を持ち専門知識を深めたいと希望する人
3. 高等学校教育課程において基礎学力を有し英語力に優れた人

【国際キャリア学部　国際キャリア学科】

国際キャリア学部は「グローバル人材育成」を教育目標にして、将来「女性のリーダー」として世界で活躍できる人材を育成します。この目標を達成するためには、高度な英語力と批判的思考力、さらに答えのない問題に果敢に挑戦するスピ

リッツが求められます。このような教育目標に賛同し、高い志を持って自己の持つ能力を発展させたいと考える人を本学部は求めます。
学部の教育目標の下、国際キャリア学科では企業との連携を通して、国際的な企業や組織への就職を支援します。そのため下記の点に留意して選抜を行います。

1. 学科方針を理解し、国際ビジネスに高い関心を持ち行動力のある人
2. 学科専門領域（国際ビジネス領域、異文化コミュニケーション領域、地域研究・国際協力領域）のいずれかに高い関心を持ち専門知識を深めたいと希望する人
3. 高等学校教育課程において基礎学力を有し英語力に優れた人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページ
https://www.fukujo.ac.jp/university/compendium/organization.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
―	3 人	―					3 人
人文学部	―	13 人	8 人	4 人	0 人	0 人	25 人
人間関係学部	―	14 人	9 人	5 人	0 人	2 人	30 人
国際キャリア学部	―	10 人	3 人	3 人	0 人	0 人	16 人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	165 人	165 人

各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法：公表方法：有する学位及び主な業績を、ホームページに学部・学科単位で公開している。 人文学部 https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/humanities/learning 人間関係学部 https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/human_relations/learning 国際キャリア学部 https://www.fukujo.ac.jp/university/faculty/inter_career/learning

c. ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
人文	205 人	181 人	88.2%	833 人	649 人	77.9%	9 人	8 人
人間関係	205 人	183 人	89.3%	851 人	710 人	83.4%	8 人	1 人
国際キャリア	150 人	159 人	106.0%	600 人	540 人	90.0%	5 人	2 人
合計	560 人	523 人	93.4%	2,284 人	1899 人	83.1%	33 人	11 人

（備考）

b.卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人文	206 人 （100%）	4 人 （ 1.9%）	175 人 （85.0%）	27 人 （13.1%）
人間関係	214 人 （100%）	14 人 （ 6.5%）	177 人 （82.7%）	23 人 （10.7%）
国際キャリア	166 人 （100%）	3 人 （ 1.8%）	143 人 （86.1%）	20 人 （12.0%）
合計	586 人 （100%）	21 人 （ 3.6%）	495 人 （84.5%）	70 人 （11.9%）

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、日本航空株式会社、全日本空輸株式会社、株式会社福岡銀行、株式会社西鉄ホテルズ、株式会社エイチ・アイ・エス、九州大学大学院、福岡教育大学大学院

（備考）

c.修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)
	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)
合計	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)

（備考）

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

・授業計画（シラバス）の作成過程

毎年 11 月に次年度の科目担当責任者へ依頼を行う。入稿後、各学部教務部委員により、授業計画（シラバス）の内容（成績評価基準を中心に）の確認を行っている。その結果、必要に応じて訂正を行う。

・授業計画の作成・公表時期

授業計画の作成は毎年 11 月から翌年の 2 月まで作業を行っている。授業計画には、下記の事項等を記載している。

「授業実施形態」（講義、演習、実験、実習の別）「授業のテーマ及び到着目標」「授業概要」「授業計画」（授業回数含む）「成績評価」「事前・事後学習」「留意事項」「実務経験の有無」「教室使用言語」「科目ナンバー」「関連 DP」

公表時期については、3 月中旬としている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

・単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況

授業計画（シラバス）に予め記載された適正な方法（各授業科目において、試験やレポート、授業への参加度など評価基準を具体的に明示）により実施している。本学で定められた成績評価の基準（GPA）については下記を定めている。

区分	評価	成績評価基準	
合格	AA	100 点～90 点	非常に優れている
	A	89 点～80 点	優れている
	B	79 点～70 点	単位認定が妥当
	C	69 点～60 点	単位が認定される最低限度
不合格	D	59 点～0 点	単位認定は不適当
	F	―	失格

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
人文	現代文化	124 単位	有・無	単位
	言語芸術	124 単位	有・無	単位

	メディア・コミュニケーション	124 単位	有・無	単位
人間関係	心理	124 単位	有・無	単位
	子ども発達	124 単位	有・無	単位
国際キャリア	国際英語	124 単位	有・無	単位
	国際キャリア	124 単位	有・無	単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.fukujo.ac.jp/university/establishment/top.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
人文	現代文化	725,000 円	210,000 円	370,000 円	施設整備費：250,000 円 休学の場合：在籍料 120,000 円
	言語芸術	725,000 円	210,000 円	370,000 円	施設整備費：250,000 円 休学の場合：在籍料 120,000 円
	メディア・コミュニケーション	725,000 円	210,000 円	370,000 円	施設整備費：250,000 円 休学の場合：在籍料 120,000 円
人間関係	心理	725,000 円	210,000 円	370,000 円	施設整備費：250,000 円 休学の場合：在籍料 120,000 円
	子ども発達	725,000 円	210,000 円	400,000 円	施設整備費：250,000 円 実験実習費：30,000 円(1 年時) 休学の場合：在籍料 120,000 円
国際キャリア	国際英語	725,000 円	210,000 円	370,000 円	施設整備費：250,000 円 休学の場合：在籍料 120,000 円
	国際キャリア	725,000 円	210,000 円	370,000 円	施設整備費：250,000 円 休学の場合：在籍料 120,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）本学における修学支援は主に学生部委員会および学生課が担っている。
年度初めに約 1 週間の期間を設けてオリエンテーションを実施している。この期間内に、奨学金制度を始め学生生活全般に関するオリエンテーションを実施し、大学生活を順調に過ごせるように支援している。経済的支援については、日本学生支援機構奨学金、地方自治体奨学金、保育士修学資金他多くの奨学金を取り扱っている。また、本学独自の給付型奨学金（修学支援奨学金、家計急変奨学金）を運用している。なお、家計急変奨学金については、随時募集し学業継続の支援を行っている。
・「入試情報　奨学金・特待生」
https://www.fukujo.ac.jp/university/exam/detail/scholarship

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）本学におけるキャリア支援は、キャリアセンター運営委員会およびキャリアセンターが中心となって行っている。卒業生年次のアドバイザー教員に各学生の就職意図と進行状況に関する詳細を記載するファイルを作成・配布・回収し、情報共有を進めている。支援を実効性のあるものにするため、アドバイザー教員に年間の「就職支援プログラム」の情報を共有し、学生へ参加を促すよう依頼している。また、1 年次に正課の授業としてキャリア科目を開講し、入学時から一貫したキャリア支援を強化している。
●大学 HP「就職・進路」https://www.fukujo.ac.jp/university/careers/

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）本学における心身の健康等の支援は主に学生部委員会、学生心理相談室、および学生課保健室が担っている。学生の心身の相談は「学生心理相談室」が担っている。常勤の臨床心理士を配置し、学生生活で抱える様々な心理的悩みや問題の相談を受け付けている。障害のある学生への修学支援の相談は学生心理相談室を中心として、学部・学科、事務部各課、科目担当教員との連携を行っている。
学生の身体の相談は「学生課保健室」が担っている。常勤の保健師・看護師を配置し、健康相談や定期健康診断、病気の早期発見、応急処置等を行っている。新型コロナウィルスが第 5 類に変更されてからも、学生への感染拡大防止周知や感染した学生からの報告や相談に対して助言や指導を行っている。
・「学生心理相談室」https://www.fukujo.ac.jp/university/life/campus/counseling
・「学生生活」　https://www.fukujo.ac.jp/university/life/

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.fukujo.ac.jp/university/about/disclosure

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F140310110801
学校名（○○大学 等）	福岡女学院大学
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人　福岡女学院

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		323人（　　）人	309人（　　）人	297人（　　）人
内訳	第Ⅰ区分	193人	180人	
	（うち多子世帯）	（　　人）	（　　人）	
	第Ⅱ区分	77人	81人	
	（うち多子世帯）	（　　人）	（　　人）	
	第Ⅲ区分	42人	35人	
	（うち多子世帯）	（　　人）	（　　人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	人	人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	11人	13人	
	区分外（多子世帯）	16人	38人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－人（　）人
合計（年間）				298人（　）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	−人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	−人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	−人	人	人
計	11人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	−人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	−人	人	人

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当）	−人	人	人
ＧＰＡ等が下位４分の１	40人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	33人	49人	人
計	49人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。